

製品名: IP6K2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12702**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	49kDa

抗原情報

遺伝子名	IP6K2
別名	IP6K2; IHPK2; TCCCIA00113; Inositol hexakisphosphate kinase 2; InsP6 kinase 2; P(i)-uptake stimulator; PiUS
遺伝子 ID	51447.0
SwissProt ID	Q9UHH9
免疫原	抗血清はヒト IP6K2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 161-210

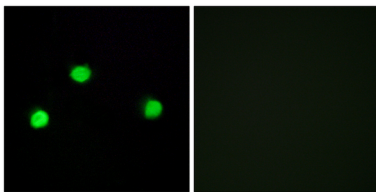
背景

この遺伝子は、イノシトールホスホキナーゼ (IPK) ファミリーに属するタンパク質をコードしています。このタンパク質は、イノシ

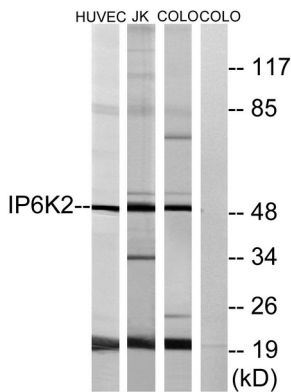
トールヘキサキスリン酸 (InsP6) からジホスホイノシトールペンタキスリン酸 (InsP7/PP-InsP5) への変換に関与していると考えられます。また、1,3,4,5,6-ペンタキスリン酸 (InsP5) から PP-InsP4 への変換にも関与し、一部の卵巣がんにおけるインターフェロンβの増殖抑制活性およびアポトーシス誘導活性に影響を及ぼす可能性があります。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが生成されます。 [RefSeq 提供、2008年7月],触媒活性: ATP + 1D-ミオ-イノシトール 1,3,4,5,6-ペンタキスリン酸 = ADP + ジホスホ-1D-ミオ-イノシトールテトラキスリン酸 (異性体配置不明), 触媒活性: ATP + 1D-ミオ-イノシトールヘキサキスリン酸 = ADP + 5-ジホスホ-1D-ミオ-イノシトール (1,2,3,4,6) ペンタキスリン酸,機能: イノシトールヘキサキスリン酸 (InsP6) をジホスホイノシトールペンタキスリン酸 (InsP7/PP-InsP5) に変換する。1,3,4,5,6-ペンタキスリン酸 (InsP5) を PP-InsP4 に変換する。類似性: イノシトールホスホキナーゼ (IPK) ファミリーに属する。 ,

研究分野

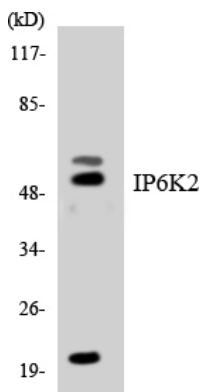
画像データ



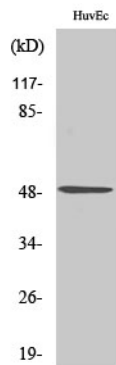
IP6K2 抗体を用いた COS7 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



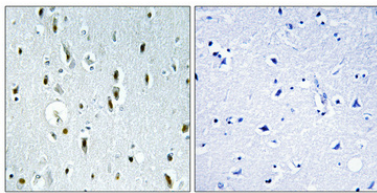
IP6K2 抗体を用いた HUVEC、COLO、Jurkat 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



IP6K2 抗体を使用した K562 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



IP6K2 ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウエスタンブロット分析。



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。